

令和6年度 阪南市外部評価委員会 報告書

令和6年10月
阪南市外部評価委員会

1. 答申書の提出にあたって

阪南市外部評価委員会は、評価視点の多角化により行政評価の客観性を向上し、総合計画の実効性を高めるため、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 138 条の4第3項の規定に基づき設置された。具体的には、総合計画に掲げられた施策に関する内部評価を検証することが主な役割である。

令和6年度は、7月 29 日(月)に市長の諮問を受け、令和5年度の内部評価結果について検証するために、計5回の委員会を開催した。委員会では、外部評価の対象とする6施策を選定したのち、評価対象とした施策に関する所管課へのヒアリングを実施し、評価シートとヒアリングの内容を踏まえた審議を行った。

審議の結果、総合計画で掲げた目標の達成に向けて、一定の成果はみられるもののまだ解決すべき課題が残っている施策については、『★1.5(「★★:施策のめざす姿に近づいている」にやや足りない「★:施策のめざす姿にやや近づいている」)』という区分を設けた。また、目標の達成に向けて重要な課題があり迅速な対応が必要と判断した施策については、外部評価の判定区分を「★:施策のめざす姿にやや近づいている」とした。

今年度も、施策・事業の効果的・効率的な推進のため、固定観念や既存の枠組みにとらわれない全庁的な連携や部局横断での取組の重要性を引き続き指摘したい。加えて、限られた資源を効果的効率的に活用するためにも、正確な現状分析に基づく事業の精査と厳選も必要であると考えている。

外部評価の判定については、評価シートの記載やヒアリングの結果を受けて、委員一人ひとりが深く検討し、委員会での議論を重ねた結果である。この答申が総合計画に掲げた将来の都市像および施策のめざす姿の実現に向け、今後の施策の実施に十分に活用されることを期待したい。

令和6年 10 月 16 日 阪南市外部評価委員会

2. 答申(対象施策の評価結果)

施策名 (施策コード)	シティプロモーションの充実 (104)	内部 評価	★★	外部 評価	★1.5
判定理由	移住者の増加をめざして、移住促進イベントの実施や幅広い媒体による広報など、様々な事業を工夫しながら実施されていることについては、一定評価したい。 しかしながら、本施策の ONE ACTION の指標である「人口社会増減数」の達成は、市として非常に大きな課題であるにもかかわらず、未達となっている。令和6・7年度の目標達成に向けても、具体的かつ実現可能な方策が見いだせていないという現状がある。「阪南市テレワークステーション利用者数」「ウェブサイトアクセス件数」についても同様である。 限りある予算や人員を効果的に運用するためにも、まずは現在実施されている事業それぞれの効果の把握や分析を実施し、個々の事業が施策のめざす姿である情報共有や情報発信、ひいては阪南市の重要課題である移住促進にどのような役割を果たすのかを十分に検討する必要がある。そのうえで、より効果的な施策となるよう、定期的に手段である事業の抜本的な見直しやスクラップアンドビルドを進められることを期待したい。 以上から、内部評価の「★★:施策のめざす姿に近づいている」にやや足りない「★1.5:施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。				
委員提案 (令和7年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	・転出抑制に向けて、市民に対する情報発信も重要であると考え。子育てや教育といった他の施策、その所管課と連携し、今後の取組を考えられたい。 ・移住定住イベントや広報の実施にあたっては、さらなる分析によってターゲットをより詳細に絞り込み、より効果的な取組となるよう検討されたい。また、取組の推進にあたっては、様々な制度の活用や民間企業との連携を検討し、人的・財政的な負担の軽減を図られたい。 ・市単独ではなく、泉南地域のみならず和歌山県内の自治体との連携を視野に、地域一体として市域・府域を超えた取組を考えられたい。				

施策名 (施策コード)	子育て支援の充実(203)	内部評価	★★	外部評価	★★
判定理由	施策のめざす姿の実現に向けて、子育て支援に関する多様な関係者と連携、情報共有してさまざまな事業を実施していること、また、指標の大半について、目標達成または達成に近い状況であることを評価したい。 以上から、内部評価と同じく、「★★：施策のめざす姿に近づいている」と判断した。 一方で、近年の子育て世帯をめぐる社会情勢の変化や国の制度改正が目まぐるしい中、事業の効果をより高め、施策のめざす姿を実現するためには、事業の現状を把握・分析して今後の実施につなげること、保護者をはじめ関係者のニーズを事業に反映させること、すでに実施している事業の周知などの情報提供に積極的に取り組まれることが必要になると考える。 あわせて、効果的・効率的な施策の推進のため、これまで以上に、全庁的な情報共有や部局を横断した連携を期待したい。				
委員提案 (令和7年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	・「はんなん子育てアプリ」の積極的な活用について、対象者への周知・登録に向けた働きかけを行うほか、対象者のニーズを把握し、関係課と連携して、対象者が登録したくなるようなコンテンツを充実させてほしい。 ・子育て世帯はスマホを日常的に使用している層であることから、スマホで完結できる情報提供・支援について、事業担当課だけでなく全庁的に取り組まれない。 ・アプリやスマホなどの活用に加え、現在担当課が大切にされている保護者や関係者との対面でのコミュニケーションには、引き続き積極的に取り組まれない。また、機会を捉えてニーズに合った他課の事業につなげられるよう、全庁的な情報共有や部局を横断した連携に取り組まれない。				

施策名 (施策コード)	学校教育の充実(402)	内部評価	★★	外部評価	★★
判定理由	設定された指標すべてが達成または達成に近い状況であることに加え、学校現場の DX への対応、生徒・児童への複雑化・多様化する対応や阪南市ならではの教育の推進などについて、様々な主体との関わりを大切にしながら進めていることを高く評価したい。 以上から、内部評価と同じく、「★★：施策のめざす姿に近づいている」と判断した。 一方で、教員の働き方改革や、悩みを抱える児童・生徒やその保護者・教員へのケアなどは、さらに充実させていただきたいと考える。また、不登校率については、小・中学校ともに全国・府内平均を下回るものの、全国・府内同様上昇傾向にあるため、さらなる対策・ケアに取り組まれることを期待したい。				
委員提案 (令和7年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	・公立学校の活動として可能な範囲で、市の特徴や立地を活かした特色ある取組をさらに進められたい。また、その他の取組においても、子どもがわくわくできるような活動内容・手法を意識し、保護者にも共有されるよう配慮されたい。 ・通学時をはじめ地域での子どもの安全確保のため、子どもの安全見守り隊など地域住民とのつながりを活かし、地域ぐるみの交通安全教育・啓発について、部局を横断した連携を進められたい。				

施策名 (施策コード)	観光の振興(501)	内部評価	★★	外部評価	★
判定理由	交流人口の増加に向けてさまざまな事業を実施するとともに、魅力的なパンフレットを作成し周知に取り組むなど、工夫を重ね、新しい取組に着手されていることは評価したい。 しかしながら、現在設定されている指標のみでは、施策の効果を把握することは難しい。市の認知度を高めるためのPRや、阪南市ならではの観光コンテンツの創出といった、施策の達成に向けた個々の事業の効果の検証も困難な状況にあると考えられる。 予算・人員に限りがある中で、今まで以上に効果的に事業を展開するためにも、まずは施策の目標を明確に定めて、関係課及び関係団体と共有する必要がある。そのうえで、目標達成に向けてターゲットを具体的に設定し、阪南市の魅力を生かした事業内容を構築し、ターゲットにしっかりと届けることができる各事業の周知方法を採用することが必要である。 加えて、施策・事業の効果の測定とその結果を踏まえた事業の改善、さらには定期的なスクラップアンドビルドにも取り組むためには、データを活用した阪南市の現状分析や他市事例の視察・研究が重要となる。 以上から、「★:施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。				
委員提案 (令和7年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	・事業の改善にあたっては、集客したい対象の絞り込みや、ターゲット層に効果的な周知方法の選定・内容の工夫を行うなどの見直しをされたい。ターゲット層に効果的な周知方法に関する事業改善の例として、ヒアリング時の委員意見にあった、観光パンフレットの市外施設への常設配架に取り組まれない。 ・施策への貢献度やターゲットに訴求する事業かを十分に精査し、事業の選択と集中を行われたい。 ・わんぱく王国の活用に向けては、来場者へのニーズ調査を行い維持管理の参考にするとともに、調査結果を分析し、施設利用が促進されるよう、また指定管理者とともに施設をより活用できるよう、取組みを始められたい。				

施策名 (施策コード)	都市基盤の形成と維持管理(510)	内部評価	★	外部評価	★
判定理由	道路などの施設については、限られた予算の中で計画に沿って維持管理されている。道路や橋梁をはじめ公園などの施設更新については、長寿命化計画を策定し、財政状況を勘案した上で優先順位を付けて計画的に進められている。 しかし、3つの指標から、道路の舗装整備に加え、児童遊園利活用やアダプトプログラム認定についても、目標が達成できていない状況にあることがわかる。 以上から、内部評価の結果は妥当であると判断し、内部評価と同じく「★:施策のめざす姿にやや近づいている」とした。 財政状況からハード事業の拡大が困難な中、市民が安全に道路や公園を利用できるようにするためにも、たとえば、自動車・自転車・歩行者が行きかう道路については、交通安全事業と連携し通行する市民の安全確保に取り組むなど、関係課と連携してソフト事業を展開するといった代替案を積極的に検討する必要がある。				
委員提案 (令和7年度 取組方針を 策定する際 に検討する べき意見)	・府道から尾崎駅までのメインとなる道路において、関係課や関係機関で十分に連携し、安全に通行できるよう対策されたい。 ・道路や公園の整備や修繕・活用については、市民の要望を待つ受け身の姿勢ではなく、自治会や市民活動団体、事業所等とつながりのある課と連携して主体的に進めるなど、積極的に取り組まれたい。 ・児童遊園の利活用については、法制上の課題を整理し、アダプトありきではなく、部局を横断した連携により、柔軟な利用を試みるなど新たな活用方法を積極的に考えられたい。				

施策名 (施策コード)	柔軟な行政経営の推進(601)	内部 評価	★★	外部 評価	★1.5
判定理由	今日の社会状況を踏まえ柔軟に行政を進めていくため、行政 DX や BPR(注)といった取組の実施や企業版ふるさと納税の積極的な活用などを幅広く進めていることについては、一定評価したい。 一方で、これらの取組を進めるにあたっては、個々の取組の実施自体が目的となってしまうことがないよう、市民の利便性向上や職員の負担減など、めざす効果を得ることができるよう、各課としっかり情報共有、連携することを期待したい。 また、ONE ACTION の指標である「達成率」、「基本計画に掲げた成果指標の平均達成率」が目標値を達成できておらず、その進捗管理に課題があることが見受けられる。前期基本計画の最終年度である令和 7 年度の目標達成に向けても、各施策の所管課と密に連携をとりながら進める必要がある。 以上から、内部評価の「★★:施策のめざす姿に近づいている」にやや足りない「★1.5:施策のめざす姿にやや近づいている」と判断した。				
委員提案 (令和 7 年度取組方針を策定する際に検討すべき意見)	・業務改革にあたっては、職員負担に留意した上で、職員のメリットを見える化し協力を得やすいよう配慮されたい。 ・行政 DX について、市民の利便性向上や職員の省力化が目標であるとの意識を共有し、連携して推進されたい。また、省力化できた事例を共有するなどし、DX 推進に対する職員の意識向上を図られたい。				

(注)BPR(ビジネスプロセスリエンジニアリング) … 業務プロセスを根本的に見直し、効率化や改善を図る手法。主にプロセスの再設計を通じて、コスト削減やサービス向上をめざす。

3. 本答申の取扱い並びに今後の行政評価及び施策・事業展開について

(1) 本答申の取扱いについて

今年度の外部評価の結果を全庁で共有し、施策の展開に反映させるとともに、委員提案については検討状況を報告していただきたい。また、今回対象とならなかった施策においても、(2)②の趣旨を施策の展開に活かしていただきたい。

(2) 今後の行政評価及び施策・事業展開について

① 今後の行政評価について

行政評価の判定に際しては、計画策定時に設定された「施策のめざす姿」とそれを数値化した指標およびその目標値が非常に重要となる。実績がそれらを達成できていなければ、厳しい評価結果とならざるを得ない。よって、令和8年度からの中期基本計画策定にあたっては、各施策のめざす姿と指標の設定に十分配慮されたい。また、目標値の設定に際しては、財政や人員の状況を踏まえ、理想だけでなく実現可能性も十分考慮していただきたい。

現状の施策シートについて、内容が充実しており施策の理解に資するものである点について、高く評価したい。ただし、より理解を容易にするため、指標の説明欄に、指標の内容や目標値の考え方の記載があることが望ましい。職員の負担を軽減するため、部局間でデータを共有し、既存の資料をうまく活用して作成できるよう十分に配慮されたい。

② 今後の施策・事業展開に関して

各施策において、さまざまな事業を実施することの利点は一定理解するものの、阪南市の財政状況を踏まえ、将来を考えると、限られた予算・人員による効果的な施策・事業の展開を徹底していく必要がある。そのためには、施策のめざす姿の達成にむけて、効果が低いと考えられる事業をスクラップし効果的な事業に置き換えていくことが重要となる。継続

して実施する事業についても、既存の枠組みや固定観念にとらわれず、絶えず現状分析を行い、これまで以上に効果的・効率的な手法を検討して改善につなげる、トライアンドエラーの精神で施策の推進に取り組まれない。

加えて、市の財政を含む地域経済の好循環につなげることも視野にいたした施策・事業の展開も期待したい。

4. 令和6年度 阪南市外部評価委員会開催日程

開催日程	委員会の議事
第1回 7月29日(月)	①市長挨拶 ②委員紹介 ③委員長・副委員長の選出 ④市長から委員長へ諮問 ⑤外部評価実施要領(案) ⑥評価対象施策の選定 ⑦質問票の配布
第2回 8月19日(月)	①ヒアリング ②判定区分等について協議
第3回 8月26日(月)	①ヒアリング ②判定区分等について協議
第4回 9月2日(月)	①ヒアリング ②判定区分等について協議
第5回 9月19日(木)	①外部評価のとりまとめ ・判定区分・判定理由 ・総括、振り返り ②会議録の確認依頼

5. 委員名簿

氏 名(敬称略)	区 分	備考
掛谷 純子 (かけや じゅんこ)	学識経験のある者	副委員長
木村 耕造(きむら こうぞう)	市民	
小坂 義(こざか ただし)	市民	
藤田 喜子 (ふじた よしこ)	市民	
壬生 裕子 (みぶ ひろこ)	学識経験のある者	委員長